



2023年4月発行

特集「なばりのきらきらウーマン」

第18回 おじゃまる広場副代表・おにぎりくらぶ代表世話人

草部 豊美 さん



名張できらきら輝く女性へのインタビュー企画・第18回目は、「おじゃまる広場」副代表・「おにぎりくらぶ」代表の草部豊美さん。やわらかい笑顔と優しい語り口調でありながら、子どもたちへの熱い思いで活動されているのが印象的でした。(インタビューの内容はこちらです)

三重県はどう?

都道府県別ジェンダー・ギャップ指数

「都道府県別ジェンダー・ギャップ指数」ってご存知ですか?上智大学の三浦まり教授らがつくる「地域からジェンダー平等研究会」が昨年初めて公表した、新しい指数です。2023年も、国際女性デーの3月8日に公表しました。内閣府などが公表している4分野、14項目のデータを分析し、男女平等を「1」とした場合の指数を都道府県ごとに出したものです。地域ごとの男女格差を可視化することで、足元の強みと課題を認識し、地域から日本のジェンダー平等を実現することがねらいです。格差が解消され、こうした指標が不要になることを目標としています。



ジェンダーギャップ指数

男女格差の状況を数値で示したものです。スイスに拠点を置くシンクタンク、世界経済フォーラム(WEF)が毎年公表しています。日本は2022年、146か国中116位と世界最低レベル。G7諸国の中では最下位で、格差解消が遅れています。

国際女性デー

1904年、08年などのアメリカ・ニューヨークの女性労働者のデモをきっかけに、1975年に国連が制定しました。女性の権利運動を称え、社会参加や地位向上を訴える日として、世界中でたくさんイベントや活動が行われています。

名張市男女共同参画センター

三重県名張市希中央5番町19番地
Navarie 2階名張市市民情報交流センター内

TEL0595-63-5336 FAX0595-63-5326

e-mail danjo-center@emachi-nabari.jp
https://www.emachi-nabari.jp/j-kouryu/



「つうしん」web版はコチラ

ご意見・ご感想をお聞かせください



分野別 三重県のジェンダー・ギャップ指数

政治 0.197

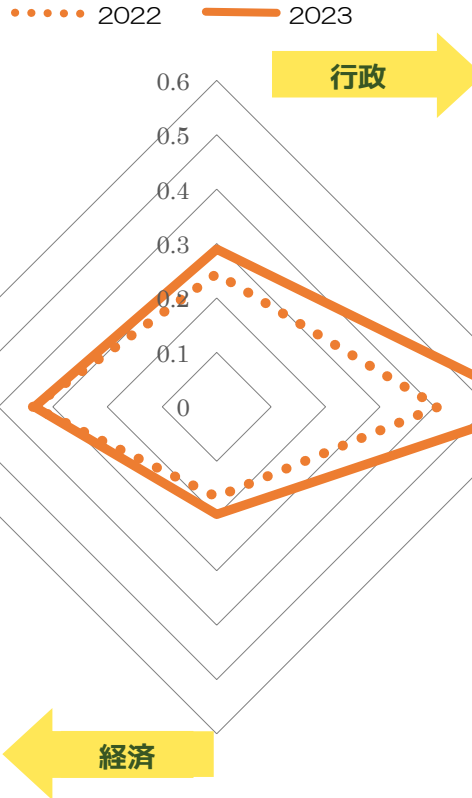
選挙区選出の国会議員における女性議員の比率が全国3位の高さで、政治分野を総合した指数は0.197と全国9位。



経済 0.197

フルタイムの仕事に従事する男女間の賃金格差が全国で最下位、共働き家庭の家事・育児などに使用する時間の男女格差が全国41位などで、指数は0.334で4つの分野で最も順位の低い46位。

県ダイバーシティ社会推進課では「賃金格差は、女性の賃金が全国平均並みなのにに対し男性が高水準のため差が大きくなったとみられる」としたうえで「女性の賃金も上がるよう行政と企業が連携し、男女ともに働きやすい環境を整備する必要がある」と話しました。



行政 0.290

都道府県庁の大卒程度の採用における女性の比率が全国2位で、指数は、0.290と全国9位。

教育 0.590

小学校の校長の女性の比率が全国13位などとなっていて、指数は0.590で全国15位。

「ジェンダー・ギャップが大きい」ということは、女性は男性と比べて教育や就労の機会が制限され、声を意思決定に反映させにくいことを意味しており、基本的人権の観点から問題があるといえます。また、女性の経済的自立や政治参画が実現しないと、人口の半分が潜在能力を開花させられず、経済の足かせにもなります。都道府県版ジェンダー・ギャップ指数を試算した目的は、地域ごとの男女格差の特色を発見し、地方から日本のジェンダー平等を底上げするためです。重要なことは、指標をきっかけに働き方や日常、意識を変えること。足元の現状を見つめ、男女格差が残る場所を探し、変化のきっかけとしていきたいものです。



参考資料: web サイト「都道府県別ジェンダー・ギャップ指数」、NHK 三重 NEWS WEB、Oggi.jp

男性は家庭に進出を

共同通信社冊子『地域からジェンダー平等を～都道府県版ジェンダー・ギャップをてこに』より抜粋、2022年に行政トップだった鳥取県の片山善博元知事の話

日本では、男女とも仕事をしていると、どうしても家事・育児の負担は女性にかかってしまう。男性は専業主婦に支えられているからできる。こうした不平等を解消しなければいけないので、(鳥取県知事時代に)異様な働き方をやめようと働き方改革を進めました。

女性が社会に進出しているなら、逆に男性は家庭に進出しなければいけない。家事も育児も地域社会との交わりも男性と女性がシェアする形にするべきです。女性が働いて、家事・育児・地域との交わりも今まで通り女性の役割だったら本当の意味の男女共同参画にはなりません。職場の働き方改革、特に男性の働き方改革をやるのがとても重要だと思います。

読書のじかん



『女子はどう生きるか 教えて、上野先生!』

上野千鶴子 著/岩波ジュニア新書/2021
ベストセラー本が漫画化されてベストセラーになった『きみたちはどう生きるか』に出てくるのは男の子だけ。それなら女の子は、男女格差のあるいまの日本でどう生きる？

「生徒会長はなぜ男の子が多いの?」「理系に進みたいのに親がダメっていう」等々、女の子たちの疑問に著者の上野千鶴子さんが全力で答えます。悩める若い人はもちろん、子育て世代や孫育て世代にもおすすめの一冊です!女の子の翼を折らないために。

貸出
アリ



相談できる場所があります

性暴力に関する SNS 相談窓口

「Cure time(キュアタイム)」のご紹介

あなたの身体を傷つけることだけが暴力ではありません。あなたが嫌だと思っているのに無理やりされる性的な行為もすべて性暴力です。モヤモヤすること、何でも相談してください。

毎日17時~21時のチャット相談

Cure time ってこんな相談窓口です

- 過去の性暴力の話でも大丈夫。
- 男性、LGBTQ+の方も相談できます。
- 性別や名前を書かなくても相談 OK。
- 性暴力かも?モヤモヤも相談 OK。



<https://curetime.jp/>

つうしん 120 号アンケート

つうしんを手にとっていただきありがとうございます。今後の編集のために、ご意見をお寄せください。ご回答いただいた方の中から抽選で2名様に図書カード1000円分を進呈いたします。

下記①~⑤の必要事項をご記入のうえ、メール、ハガキ、または FAX でお送りください。(送料等はお負担ください)

※ご記入いただいた個人情報は図書カードの発送のみに使用し、当選発表は景品の発送をもってかえさせていただきます

- ① 記事の内容は参考になりましたか? (a) 参考になった (b) 参考にならなかった
- ② 「参考になった」を選択された方にお尋ねします。どの記事が参考になりましたか?(複数回答可)
(a) 特集「なばりのきらきらウーマン」 (b) 都道府県別ジェンダー・ギャップ指数 (c) 読書のじかん『女子はどう生きるか 教えて、上野先生!』 (d) 性暴力に関する SNS 相談窓口 (e) 相談日程
- ③ 興味のあるテーマ、今後読みたいと思うテーマはどれですか?(複数回答可)
(a) 生命の安全教育(性教育)のこと (b) 世界の男女共同参画の取組 (c) その他()
- ④ 特集「なばりのきらきらウーマン」についてご意見・ご感想をお聞かせください。
- ⑤ 120号の記事全体について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

★ お名前、年齢、住所、連絡先、つうしんの号数を明記の上、下記連絡先へお送りください。

応募締切は **6月10日 土曜日(必着)**です。

〈メール宛先〉 danjo-center@emachi-nabari.jp 「つうしん 120号アンケート」

〈郵送宛先〉〒518-0775 名張市希中央 5-19 名張市男女共同参画センター宛

〈FAX 宛先〉 0595-63-5326



メールQRコード

編集後記

「つうしん」に携わるようになって、自分が日頃放置していた「わからないこと」や「モヤッとすること」を、調べてみたいと思うようになりました。例えば「他人の夫を“ご主人”や“旦那さん”以外にどう呼べばいい?」とか「映画やカフェの“レディースデー”は男性を差別しているのかな?」とか。みなさんはどう考えますか? 日頃の疑問やモヤモヤも、アンケートでお寄せいただければ幸いです。















2023年

相談日程

名張市男女共同参画センター

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	休館日					
7	8	9	10	11	12	13
	休館日	 人権相談 13:30~16:00	 女性のための相談 9:00~12:00	 男性のための相談 17:00~19:00	 女性弁護士 による法律相談 10:00~12:00 13:00~15:00  女性のための相談 13:00~16:00	
14	15	16	17	18	19	20
	休館日	 人権相談 13:30~16:00	 女性のための相談 9:00~12:00	 メンタルヘルス相談 10:00~12:00	 女性のための相談 13:00~16:00	
21	22	23	24	25	26	27
	休館日	 メンタルヘルス相談 13:00~16:00	 女性のための相談 9:00~12:00		 女性のための相談 13:00~16:00	
28	29	30	31	●予約電話 63-5336		
	休館日					

★「女性のための相談」3日(水)・5日(金)は、祝日のためお休みです。

★「女性弁護士による法律相談」は第1金曜日ですが、祝日のため翌週になります。

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				 人権相談 10:00~15:00	 女性弁護士 による法律相談 10:00~12:00 13:00~15:00  女性のための相談 13:00~16:00	
4	5	6	7	8	9	10
	休館日		 女性のための相談 9:00~12:00	 男性のための相談 17:00~19:00	 女性のための相談 13:00~16:00	
11	12	13	14	15	16	17
	休館日		 女性のための相談 9:00~12:00	 メンタルヘルス相談 10:00~12:00	 女性のための相談 13:00~16:00	
18	19	20	21	22	23	24
	休館日	 人権相談 13:30~16:00	 女性のための相談 9:00~12:00		 女性のための相談 13:00~16:00	
25	26	27	28	29	30	
	休館日	 メンタルヘルス相談 13:00~16:00	 女性のための相談 9:00~12:00		 女性のための相談 13:00~16:00	



女性のための相談

予約優先

電話相談可

毎週水曜日 9:00~12:00 ※祝日の場合は
毎週金曜日 13:00~16:00 お休みです

女性弁護士による法律相談

要予約

面談

毎月第1金曜日 10:00~12:00
13:00~15:00

男性のための相談

予約優先

電話相談可

毎月第2木曜日 17:00~19:00



メンタルヘルス相談(男女共)

要予約

面談

毎月第3木曜日 10:00~12:00
毎月第4火曜日 13:00~16:00

人権相談

要予約

面談

毎月2回 ※詳しくは、名張市人権センター(☎63-0018)へお問い合わせください

Special interview 18

「男女共同参画」とは「自分らしくあること」ではないかと私たちは考えています。
男らしく、女らしく、ではなく、ありのまま生き生きと暮らす。
そんな風に「自分らしく」人生を歩んでいる地域の女性たちをご紹介します。

くさ べ とよ み 草部 豊美さん

おじゃまる広場 副代表
おにぎりくらぶ 代表世話人

profile

大阪生まれ。ゆったりとした暮らしを望み、名張へ転居して25年。つつじが丘地域を中心に、食を通じた学びや子育てサロン、世代をつなぐ場づくりなど、子どもに関する地域活動を続けている。「くつつじ地区民生委員児童委員協議会」の会長でもある。3児の母。

次世代に伝えたい
食べる力は
生きる力

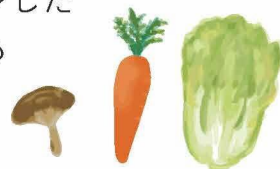


これまでの活動について聞かせてください。

つつじが丘、春日丘地区の主任児童委員を続けて14年目になります。そして親子の遊び場や子育て交流の場である「おじゃまる広場」の代表を12年務め、今は副代表です。その間に必要を感じて、赤ちゃんと中学生とのふれあいの場、小学生と地域の高齢者がふれあえる場、子どもたちが自分でごはんを作る「おにぎりくらぶ」などを立ち上げてきました。これらはおじゃまる広場の一環として継続中です。また、アレルギーの子どもがいるママたちで発足した、つながる食を考える会「こどもとごはん」の代表は2011年からさせていただいています。

たくさんの活動をされていますね！ 共通する思いはどんなことでしょう。

役職が多いのは断れない性格もありまして。引っ越し当初、知り合いが誰一人いない名張で1歳の娘と入った子育てサークルが、私にとってはとてもありがたいものでした。2年後に恩返しのつもりで代表を引き受けたことをきっかけに活動が広がり、子どもが大きくなった今も子育て支援のフィールドにいます。中でも「こどもとごはん」で自然食や学校給食について学び合ったり、2020年に作った「おにぎりくらぶ」で食育にチャレンジしたりと、食べることをとても大事に思っています。



「おにぎりくらぶ」ってどんな取組ですか。

つつじが丘市民センターで月に1回、子どもたちがボランティアの力も借りて、自分たちで晩ご飯を作って一緒に食べています。どんな家庭の子でも、自分でご飯が炊けてお味噌汁が作れたらちゃんと食事ができる。また、子どもたちにとっても一人暮らしのボランティアさんにとっても、一緒に食べられる「地域の団らん」の場を作りたいという思いで活動を始めました。当初、そういうことは家庭でするものだという意見もありましたし、食材や材料費集めも苦労しました。しかし、ボランティアさんたちの協力や、当時のつつじが丘市民センター長が予算をつけてくれたこと、有機農家さんが野菜を安価で提供してくれたことなど、たくさんの応援があって、今はおじゃまる広場の活動のひとつとして軌道に乗っています。

活動とご家庭の両立はどのようにされていますか。

夫は転勤族で単身赴任の期間が長いのですが、帰ってきたときにはたくさん話し合い、子育ての方向性なども共有してきました。私が沈んでいるとドライブに誘ってくれたりも。子どもたちは進学や就職で家を離れています。

過去に会議などで私が家を空けることがあっても、子どもたちが役割分担してそれなりにやっていて、すべて親が見ていなくてもできることは多いんだと学びました。また、地域の中に私がいることで、子どもたちを地域が育ててくれている感覚がありました。



食を通じて子どもたちに伝えたいことは何ですか。

人は食べないと生きていけないわけですが、今は安くて便利な食べ物があふれていて、「一から作る」ことが少ない。その分、食べること、生きることを他人にゆだねていることになり、遮断されたらたちまち困ります。おにぎりくらぶの子どもたちには、味噌や漬物も自分で作れることや、お米と野菜があれば栄養のあるおいしい食事ができることを知ってほしい。おにぎりくらぶに入って1年を経た子は「自分にご飯が作れる」と自信をつけるんです。例えば、家族のいない夏休みのお昼ごはんや災害時などに、自分で考えて動くことができます。この、「考えて動ける」ことが、将来にわたって子どもたちの生きる力になると信じています。



* 見つけた「彼女らしさ」 *

あたたかい人柄がにじみ出るような笑顔の草部さん。「断れない性格だから」と謙虚ですが、実際はどの場面においても、子育て支援というぶれない軸を貫きながら、理念とあふれるアイデアで主体的に活動されている様子に、草部さん「らしさ」を感じました。